

プロパー融資を受けるには

信用保証協会付融資は、協会が保証を担うことで銀行側のリスクが抑えられるため、財務基盤を構築中の企業様や、お取引の浅い段階の企業様に対しても、柔軟な融資検討が可能となる仕組みです。一方で、所定の保証料負担や借入限度額の設定など、企業様側にとってデメリットとなる面もございます。今回は、そういった信用保証協会の保証なしの融資、「プロパー融資」を受けるために、銀行目線で特に重視しているポイントをご紹介します。

1. 企業・事業者としての信用力・実績

まずは何といても、安定した財務基盤の構築が重要な鍵となります。銀行が信用格付を行う際、決算書のデータを細かく分析し様々な数式から判定しますが、大きく見ているところとしては、下記3点が代表的です。

- ①BS における自己資本比率：概ね 30%以上を目安に、厚みがあるほど安定感が増します。
- ②PL の利益状況：毎期、安定して利益を計上できているかどうかポイントです。
- ③総合的なキャッシュフロー：返済の原資となる現金預金が、融資前からある程度確保されているなど、資金繰りのゆとりも重視されます。

上記内容をしっかりと整えていくことが、強固な財務体質を築く上での大切な土台になります。

2. 社長の定性面

重要なのは数字だけではございません。決算書には出てこない社長の定性面も査定を行う上で必要な要素となっております。

例えば、自社の業績把握や事業展望など、利益が出ていたとしても再現性がなかったり、事業にあまり関与しておらず経営者としての資質が疑われるような面があると、担当者は「“無担保・無保証”で貸していいのか？」と感じてしまいます。また、銀行からの依頼事項や資料を中々提出せず、自社に都合の良い要求ばかりを押し通すような社長は担当者としても稟議を通したい、取引を積極的にしたいと思わなくなるでしょう。

総じて、プロパー融資を受けるには良好な財務に加えて銀行との信頼関係が求められます。

プロパー融資の検討にあたっては、多くの場合、支店長をはじめ副支店長や次長など、支店内で権限を持つ役席者との面談がチャンスとなります。そのため、まずは日々の窓口である担当者との間で、『この企業様なら、ぜひ役席者へ紹介したい』と感じてもらえるような、一步踏み込んだ信頼関係を築いていくことが、スムーズな審査への足がかりになると考えられます。

また、中長期的な事業計画に基づいた具体的な数字の根拠を示し、融資資金がどのように利益と返済原資に繋がるかを共有することで、銀行から事業計画に沿った融資提案を持ってくるようになります。

3. 最後に

銀行が自ら貸し倒れリスクを負う融資であるプロパー融資を受けられたということは、すなわち財務・企業体質ともに一定以上の評価を獲得していることを意味しており、社長にとっても自信が付き、その後の銀行交渉もしやすくなることでしょう。保証協会融資の次はぜひ、プロパー融資に挑戦してみてください！